

(様式)

令和6年3月1日

狭山市教育委員会
教育長 滝嶋 正司 様

狭山市立柏原小学校
校長 高瀬 晃次

令和5年度 狭山市立柏原小学校関係者評価表

※ 学校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について評価する。

※ 【評価の目安】

- A : よくできている。 (90%以上)
- B : 概ねできている。 (85%以上)
- C : あまりできていない。 (70%以上)
- D : できていない。 (70%未満)

領域	番号	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員から 評価(文章表記)
			評価	説明	
学校運営全般	1	学校の重点目標が明確である。	B	3:教職員一丸となり、同一步調で児童の指導・支援にあたっている。自己肯定感をより高めるように、児童一人一人の良さを認める機会を幅広く設定し、工夫した。(教科・領域 係・当番活動 学校行事等)	1:校長先生を中心に教職員が学校運営に努力しており、基本的な考え方や目標などの説明が丁寧でわかりやすい。 2:児童に寄り添った姿勢で教育活動に取り組んでいただきたい。「学校が楽しくない」と感じている児童の原因や対応策を進めてほしい。 3:事務の方の電話や訪問した時などの対応が親切・丁寧である。 4:校内は常に清潔にされており、明るい印象がある。 5:校舎周辺・校庭・運動場がとてもきれいである。
	2	児童生徒は、学校生活が楽しいと感じている。	A		
	3	教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。	B		
	4	清掃が行き届き、学校がきれいである。	B	5:校舎の築年数が長く、老朽化も見られる部分はあるが、丁寧に使用し、適宜修繕しながら安全な管理に努めている。	
	5	学校の施設・設備は安全に管理されている。	B		
学習	6	教師は、児童生徒が興味関心のもてる授業、わかりやすい授業を実施している。	A	6:今年度の学校研究の主題にも掲げている「ユニバーサルデザインにもとづく授業づくり」を意識した授業を展開したことで、児童が興味関心を持ち、わかりやすい授業を実施することができた。	6:楽しみながら学ぶことができるよう工夫されている。できる喜びを育むことは大変重要と考える。めざす児童像「思いやりのあるやさしい子」の考え方に基づいた指導も願います。また全員が手を挙げて発言できる取り組みを望む。
	7	児童生徒は、落ち着いて学習に取り組んでいる。	B		
	8	児童生徒は、基礎的基本的な学力を身に付けている。	B		
	9	児童生徒は、家庭学習の習慣を身に付けている。	B		
	10	児童生徒は、英語活動をとおして積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。	B		
規律ある態度	11	児童生徒は、進んであいさつをしている。	B	14:学校生活や学習等のきまりが記載された「柏小ミニマム」をベースに、教職員が担任をしている児童だけでなく、全児童に対して同一步調で指導・支援することができた。	11:挨拶には個人差がある。児童の多くは挨拶をすれば返してくれるので粘り強く対応していきたい。先生方の努力で徐々に挨拶が良くなっているように思う。
	12	児童生徒は、場に応じた言葉遣いができている。	B		
	13	児童生徒は、時間を守って生活している。	B		
	14	児童生徒は、きまりを守って生活している。	A		
	15	教師は、自ら手本となり、規範意識を高めている。	B		
健康・体力	16	学校は、児童生徒の体力を高めている。	B	17:今年度は5月からコロナが5類移行となり、児童は、体育の授業はもちろんのこと、業前や業間、休みに大いに体を動かしている。また縦割り遊びや運動委員会で高学年が考えた全校遊びを行い、外遊びに意欲的に取り組めた。	17:校庭で外遊びを活発に行っている様子をよく見かける。元気な声が我が家まで届いており、子供たちの明るく元気な姿が想像できる。運動会を見ても児童が楽しんで友好的に参加している。
	17	児童生徒は、体育や外遊びに意欲的に取り組んでいる。	B		
	18	児童生徒は、健康を意識した生活をしている。	B		
地域との連携	19	学校は、教育活動に関する様々な情報を積極的に提供している。	A	19:ホームページを有効に活用し、新規に「柏小ダイアリー」を掲載し、児童の活躍の様子を伝えた。また毎月発行する学年だよりには「めざす児童像」を必ず記載し、どんな児童に育ってほしいかが保護者・地域の方に分かるようにした。	19:学校の情報が明確に分かる。日常的なコンタクトがとれるとよい。 20:教職員が地域活動への協力をしている。具体的な連携・協力事項が分かるとより協力体制が整う。不登校問題にも協力していきたい。
	20	学校は、保護者や地域と連携・協力し、教育活動を行っている。	B		